

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	らく相談室まなえだ（児童発達支援事業）			
○保護者評価実施期間	2026年1月13日 ～ 2026年2月13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2026年1月28日 ～ 2026年2月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別対応・多職種との連携をしながら、言語・コミュニケーションの発達支援の療育の提供	言語聴覚士、保育士、臨床発達心理士、教員資格をもつ職員が対応し、それぞれの専門性を活かし情報共有や情報交換を行いながら、ことばの発達支援の提供に努めている。知識や技術の習得・スキルアップを目的に、月2回の職員同士での勉強会や、年2回程度外部講師を招いての研修会を継続して開催している。	引き続き、より専門性の高い支援が提供できるよう研修会の開催や、外部研修会参加を重ね、質の向上を図っていく。
2	保護者向けの学習会開催や交流の場の提供	昨年度に引き続き、言語・コミュニケーション発達についての学習会、先輩保護者や外部講師を招いての学習会を開催した。また、保護者同士の交流会の開催回数を増やし保護者支援の充実に務めた。	引き続き、学習会や保護者交流会を開催する。
3	関係機関との連携	利用児・児童の在籍校園への見学に出向いたり、関係機関からの見学を受け入れたりして、意見交換や情報共有を行った。 在籍園職員向けの勉強会を年4回計画し、うち2回を外部講師を招いて開催した。	関連機関への見学や在籍園職員向けの研修会開催を継続し、意見交換・情報共有に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援記録や所見の記入内容 適切なアセスメント実施	子どもの見立てや支援目的を十分に理解できていない現状がある。	支援計画立案のカンファレンスでの情報共有に加え、勉強会等を通して、子どもの見立てや指導目的についてのスキルアップに努める。
	保護者支援 （定期的な面談の開催）	日々の支援の中で、こどもの状況の共通理解や、子育て等の助言を重ねているつもりであったが、定期的な面談を設けていなかった。	年4回、面談形式で取り組みます。
3	各種マニュアルの策定や非常災害を想定した定期的な避難訓練等の情報発信について	各種マニュアルを作成し、定期的な訓練を実施してるが、それらの内容を発信する機会を設けていなかった。	所内での掲示や通信等に記載し、周知を図る。 年度初めに通信に所内に掲示してあることを記載する。